

だい
第2
ステップ

A

ことばのルールを学ぶ

まな

学ぶ

おうちの方へ

第2ステップでも、まずは正しい表記についての勉強から始めます。第1ステップよりも少し難しい問題です。大人でも間違ってしまいそうな問題も含まれています。一般に間違われて使われているような表記も交じっています。このような問題に触れながら、表記に対しても子さんの注意を向けるようにします。そして、徐々にお子さんがことばへの関心を高めていくようにします。

もん だい 1

日本語の表記に親しむ問題

答えは、べっさつ

3
ページ

つぎの文**ぶん**を読んで、書き方の正しいほうの記**き**じに○をつけましょう。

1

ア ぼくは、おうきな家**いえ**を見つけました。
イ ぼくは、おおきな家**いえ**を見つけました。

おうちの方へのアドバイス



まずは第1ステップと同じように、正誤問題から始めます。

ここでは、音の上では同じなのに表記は異なるという例をいくつか交ぜています。なぜそうなのかお子さんに質問されるかもしれません、文法的に正しく答えても、低学年のお子さんに理解するのは難しいと思いますので、一つひとつ覚えるように教えることをお勧めします。

5

イ ア

わたしのいとこは、とおくの町にすんでいます。
 わたしのいとこは、とうくの町にすんでいます。

イ ア

このジュースはまづい。
 このジュースはまづい。

4

イ ア

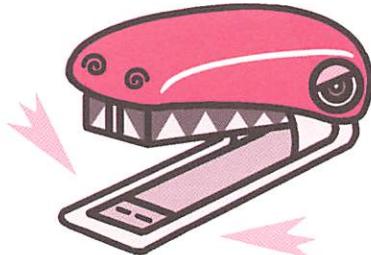
先生、
 先生、さようなら。
 さようなら。

3

イ ア

お母さん、
 お母さん、かあさん、いつてきます。

2



おぼえよう！

おくりがな①

ことばが形をかえるときに、文
 字がかわるところから、おくります。

書く → 書かない → 書きます →

書くとき → 書けば → 書こう

◎帰る、走る、行く、歩く、読む、
 歌うなども同じです。

教科書の後ろのかん字ひょうを
 見ておぼえましょう。

6

ア けんいちくんは、ぼくよりも力ちからがつよい
イ けんいちくんは、ぼくよりも力ちからがつおい。

7

ア そんなことをゆうのは、わがままな子どもです。
イ そんなことをいうのは、わがままな子どもです。

8

ア わたしのおとおとは、まだ三さん才さいです。
イ わたしのおとうとは、まだ三さん才さいです。

9

ア あの先生せんせいは、気がみじかい。
イ あの先生せんせいは、気がみぢかい。

10

ア このマンガのつづきが、早く読みたい。
はや
よ

33ページ、
45ページの
「おぼえよう」
を見よう。



!!!



おぼえよう！

「ち」, 「づ」

口で言うときは「ジ」「ズ」
 でも、書くときは「ち」「づ」
 と書くきまりになっている
 ことばもあるので、気をつ
 けましょう。

◎二つのことばがつながっているもの

はなーち→はなち

かなーつかい→かなづかい

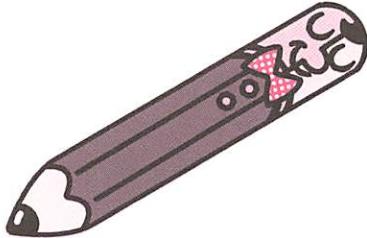
こーつかい→こづかい

こーつつみ→こづつみ

◎「ち」や「づ」が二つかさなっているもの

○ちちむ ×ちじむ

○つづく ×つずく



11

イ ア

大きらいなニンジンを、

少しずつ食べる。

イ

このマンガのつづきが、

早く読みたい。



もんだい 2

助詞などの正しい使い方を身につける問題

こた
答えは、べっさつ

3
ページ

つぎの文を読んで、書き方の正しいほうの記号に○をつけてましょう。

1

ア あしたは、晴れるでしょう。

イ あしたは、晴れたでしょう。

2

ア すず虫の鳴き声を聞くえる。

イ すず虫の鳴き声が聞くえる。

3

ア ゆきちゃんは、よくへそをまがる。

イ ゆきちゃんは、よくへそをまげる。



おうちの方への
アドバイス

正しい書きことばとして、「れる・られる」の用法を覚えさせます。「見れる」などの「ら抜きことば」は、ことばの乱れとして取り上げられる典型です。正しい書きことばとして、「れる・られる」の用法を覚えておく必要があるでしょう。

文法的に言ふと、「れる」は、五段活用動詞およびサ行変格活用動詞の未然形につきます（この場合のサ行変格活用動詞の未然形は「セ」の形をとる）。「られる」は、上一段活用動詞、下一段活用動詞、力行変格活用動詞および使役の助動詞「せる」「セせる」の未然形につきます。

お子さんにはもちろん、一般の大人にとっても、この説明はあまりに専門的でわかりにくくものではあります。むしろわかりやすい見分け方があります。

紛らわしい時には、命令の形にしてみてください。最後が「る」になる場合は、「られる」ができます。「投げる」は「投げろ」ですから、「投げられる」であって、「投げれる」とは言いません。「食べる」は「食べろ」だから、「食べられる」、「見る」は「見ろ」だから、「見られる」です。

この方法ですべてを見分けられるわけではありませんが、ほとんどの場合に有効ですから、確かめてみてください。

7

6

5

4

ア イ

ア イ

ア イ

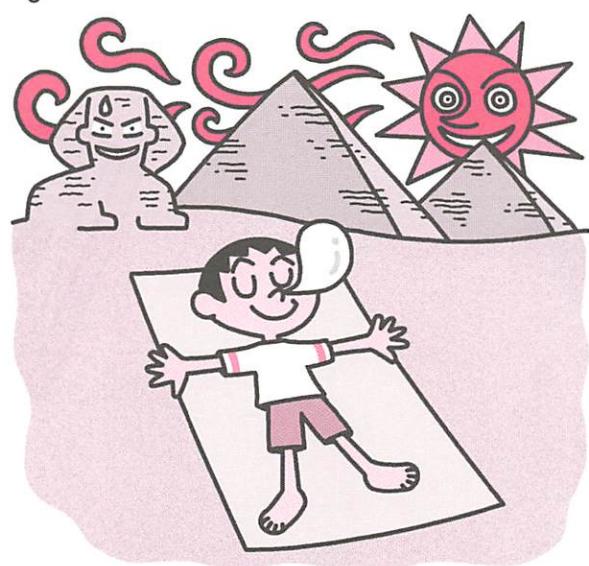
ア イ

ア イ
 わたしがすきなのは、スパゲッティが好きです。
 わたしがすきなのは、スパゲッティです。

ア イ
 母は兄に、たまごを買^かいに行^いかせた。
 母は兄に、たまごを買^かいに行^いかさせた。

ア イ
 ぼくは、どんなにあついところでもねれる。
 ぼくは、どんなにあついところでもねられる。

ア イ
 ぼくのたからものを、友だちに見^みらせる。
 ぼくのたからものを、友だちに見^みせる。



8

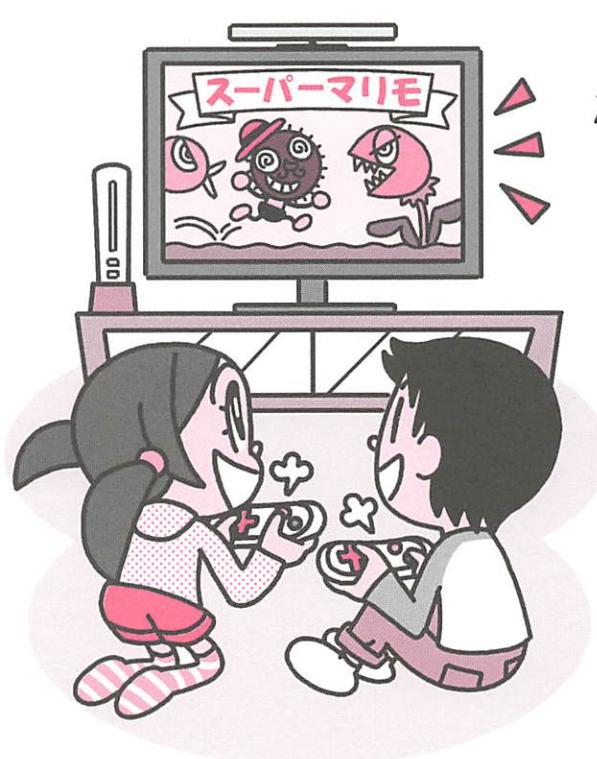
ア ここから、外に出られます。
イ ここから、^{そと}_で外に出れます。

9

ア 算数のしゅくだいが、なかなかおわります。
イ 算数のしゅくだいが、なかなかおわりません。

10

ア 友だちとやつたゲームは おもしろかった。
イ 友だちとやつたゲームは おもしろいでした。



もんだい3

書きことばを覚える問題

どうひが、書くひとの「ことば」でしょか。
 書くひとの「ことば」をつかってことばの「ことば」
 うに○をつけましょ。

1

ア ぼくは、ついついゲームをしちやう。
 イ ぼくは、ついついゲームをしてしまう。

2

ア 早くふとんをしきなさい。
 イ 早くふとんをひきなさい。

3

ア おそくなつて、すいません。
 イ おそくなつて、すみません。

おうちの方への アドバイス



方言は方言、俗語は俗語と
認識して使ってほしい

子供たちは、流行語や俗語や方言をほと
んど意識しないで使っています。そうしたこ
とばを使うこと自体は表現を豊かにするのに
好ましいことなのですが、方言は方言、俗語
は俗語と認識して使ってほしいのです。
 ここでの問題は、そのような意識をお子さ
んに持つてもらうための訓練と考えてください。このような問題をこなすうちに、さまざま
な種類のことばを理解していきます。



答えは、べっさつ

3
ページ

ア この本は、すごいおもしろかった。
イ この本ほんは、すごくおもしろかった。

ア りなちゃんはかなしそうで、いつ
もどちがかつた。

イ りなちゃんはかなしそうで、いつ
もどちがつていた。



おぼえよう！

おくりがな②

にたよーな読み方が二つあるときは、文字がちがうところ
からおくります。

れい→止まる→止める
う 生む→生まれる
さ 下がる→下げる

き 聞く→聞こえる
あ 上がる→上げる



もんだい 4

読みやすい文を書く力をつける問題

こた 答えは、べっさつ

4

ページ

つぎの文が読みやすくなるように、
点（、）をうつけましょう。

あしたは遠足えんそくの日ひなので晴はれてほしい。

ジャングルジムであそぶのはとても楽しい。

ぼくは道みちでころんとひざをすりむいてしま

いました。

わたしは男おとこの子ことけんかをしてまけたこ

とがありません。

おうちの方へのアドバイス



日本語には、読点（いわゆる、点）の打ち方について、
はつきりした決まりはありません

読点はかなり自由に打つてよいのですが、だいたいの基準があるので、それを示しておきましょう。以下にあげることを基準として、お子さんに指導してあげてください。

a 主語が長いとき、主語の後に付ける。

【例】私の知っている人は、その中にはいない。

b 文頭の接続語・独立語の後に付ける。

【例】したがって、私はそれには賛成である。

c 重文で、「……だが」「……なので」などの後に付ける。

【例】たくさんの人人がいたので、私はさつさと帰った。

d 続けて書くと、誤解されるときにつける。

【例】その後、四郎さんがやってきた。（「その後

四郎さんがやってきた」にすると、「後四郎」という名前だと取れる。）

【例】テレビの野球中継で松坂、イチロー、ダルビッシュを見た。

5

きょうぼくの弟はかぜをひいてようち園を休んでいます。

6

きのうわたしは算数のしゅくだいをわすれて先生にしかられました。

7

わたしははんたいしましたが妹はそのお金でケーキを買いました。

8

これからわたしはお母さんのおつかいでコンビニへ食パンを買いに行きました。

9

たくやくんはやつと自てん車にのれるようになつたのでとてもうれしそうです。

10

休み時間まごみちゃんはゆういちくんにわる口を言われてとてもおこりました。

5

4

3

2

1

夏はあついが、冬は（ ）。

わたしのへやはいつも（ ）が、お姉さんのへやはいつも（ ）だ。



ようこちゃんはかみの毛が（ ）が、わたしはかみの毛が（ ）となりの家のにわは（ ）が、わたしの家のにわは（ ）。

クジラは（ ）が、メダカは（ ）。

赤字のものとはんたいのいみのことばを、（ ）の中に入れましょう。

もんだい 5

反対語を覚える問題

答えは、べつさつ

4

ページ

6

ぼくの父は頭がかたいが、母は頭が（　　）。

（　　）。

7

うちの犬はうるさいが、となりの犬は（　　）。

（　　）。

8

昼は明るく、夜は（　　）。

（　　）。

9

お父さんのゆびは太いが、わたしのゆびは（　　）。

（　　）。

10

お兄さんのけいたい電話は新しいが、お父さんのは（　　）。

（　　）。



!!!



おぼえよう！

おくりがな③

◎ 「古い」のように「い」、「新しい」のように「しい」のつくことば

たか ふと ちか なが くろ よわ ただ した
高い 太い 近い 長い 黒い 弱い 正しい 親しい

◎ 読みまちがいのないように一つ多くおくことば

すく あか ちい おお
少ない 明るい 小さい 大きい

※「明」というかん字は読み方が多いのでまちがえないでね。

ものの名前をあらわすことばは、「月」「川」などのように、ふつうはおくりがなをつけません。ただし、数を数える「つ」や形のかわることばからできたことばには、おくりがなをつけます。

◎ とくべつにつけることば

ひと ふた みつ ここの あ こた ちか うし
一つ、二つ、三つ……九つ 当たり 答え 近く 後ろ

◎ とくべつにつけないことば

むかし話 (うごきをあらわすときはつける→話し合い)
ひ ひかり に ねんさんくみ
日の光 二年三組